

小児事故防止先進国に見られる事故防止事業の事例
(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

研究協力者 国立公衆衛生院母子保健学部
加 藤 則 子

要約：オーストラリアにおける小児事故防止対策について国内報告書をレビューした結果、早くからセーフティセンター、事故情報システム等の特徴ある取り組みが関係機関との連携の元に行われていることが分かった。また、キッドセーフのような民間の団体が重要な役割を演じていることが分かった。キッドセーフ西オーストラリア州支部では、快適で安全な生活を目指してモデルハウスによる展示がされ、日常生活の各方面にわたる長年の小児事故防止の取り組みが行われており、現在妊娠中からの安全教育に着手している。西オーストラリア州事故防止プロジェクトでは、情報キットとトレーニングワークショップからなるパッケージが提供されたところであり、地域住民の力を生かしての生活に密着した事故防止の取り組みが始められた。

見出し語：小児 事故防止 西オーストラリア州

目的

日本における事故防止対策推進のために、小児事故防止先進国であるオーストラリアにおける取り組みの実際を視察、調査し、わが国での今後のあり方について考える。

研究方法

オーストラリアの小児事故防止事業に関する国内の報告書をレビューし、これまでの経緯や近年の状況について把握する。さらに、西オーストラリア州都パースにあるキッドセーフ西オーストラリア支部および西オーストラリア州事故防止プログラムを訪問し、現在の小児事故防止に関する動きについて把握する。

結果

1. 国内報告書のレビュー

国内の報告書に見られたオーストラリアにおける事故防止対策は、セーフティセンター、事故情報システム、キッドセーフ等についてまとめられていた。これらを把握しておくことは各方面の有機的な連携のもとに進められているオーストラリアの事故防止事業を理解するための助けとなる。

セーフティセンター

オーストラリアにおいて小児の事故防止活動を行なっている施設（セーフティセンター）は、1990年には5箇所あり、すべて小児病院内に設置され、2箇所ではモデルハウスとしての一軒の家屋がたてられている。

メルボルンにあるRoyal Children's HospitalのSafety Centreは、旧病院の1回の玄関入ってすぐ右にある。センターに入るとすぐ左に20人前後を対象とした講義用スペースがあり、右側にはパネルコーナーで20枚くらいのパネルが展示されている。奥は台所で各種物品が展示されている。この他ショップや図書室がある。

職員は1名の看護婦と2名の事務員からなる。ホームドクターによる健診時にここを紹介され、児が6ヵ月位の時点で訪れ、見学し講義（約1時間半）を受ける。

行なわれている取り組みは以下のとおりである。

- ・セーフティショップ
- ・電話相談
- ・事故防止モデルキッチン及びバスルーム
- ・事故予防啓発ディスプレイ
- ・図書室

- ・事故予防セミナー、両親への講義、救急コース
- ・出張研修、地域保健活動の支援

母親学級に出向いたり、キーパーソンを指導者として育成したりする。

西オーストラリア州では、プリンセス・マーガレット病院協の家屋がセーフティセンターとなっている。視察結果は後節に述べる。

事故情報システム

事故は、種類の多さ、発生件数の多さ、事故の内容や程度が一件一件異なっていることなど、その実態を把握することがたいへん難しい。オーストラリアでは、1987年以降、小児を対象として国のレベルでNational Injury Surveillance and Prevention Project が稼働している。

各州はそれぞれ独立してデータの収集ならびに解析を行なっているが、データ入力のためのコード番号は国のレベルで統一され、厚いマニュアルが作成されている。

1988年、ビクトリア州事故サーベイランスシステムが州都メルボルンのRoyal Children's Hospital 内の本部で始まった。事故の情報収集は、メルボルン市内の5つの病院の救急部を定点とした。8年間で17万件の事故が報告され、季刊誌にまとめられている。1995年にはコンピューターシステムとなり、参加する病院も5病院から25病院と拡大した。新システムには3つのレベルの情報が入る。レベル1は46項目からなる最小限のデータセットで、レベル2は関心のある病院によって集められ、以前の収集システムはこのレベルである。レベル3は、特定の事故に関する追跡調査結果である。ビクトリア州事故情報システムは現在、州立モナシュ大学アクシデンツリサーチセンターに置かれている。

西オーストラリア州の事故情報システムは、プリンセスマーガレット小児病院の救急部での情報収集による。1990年1年間の収支としては、収入は連邦政府、州衛生部、小児病院、宝くじ、寄付金、販売売り上げ等であり、支出は研究員や事務員の給与、諸雑費である。1500万円で9000例の事故情報が収集されたことになる。

日本では、地域をカバーする中心的な病院があまりないので、病院を定点とした情報システムを確立するのがむづかしい。

キッドセーフ

キッドセーフとは全国的な非営利民間団体であるオーストラリア子ども事故予防協会の商標である。小児外科医たちが子供の不慮の事故を減らす必要があることを訴えたことが契機となり、専門家、ビジネス界の人々によって1979年に設立された。

ほとんどのキッドセーフの事業は連邦や州税が免除されており、またキッドセーフに対する寄付は税控除の対象となる。

キッドセーフは連邦レベル（本部）と州レベル（支部）で事業を行なっている。本部はメルボルンに小さい事務所をおき、組織全体の管理や調整を行なっている。支部は各州都とひとつの都市に事務所を置いている。

事業は支部レベルを中心に行なわれる。多くの州では事故予防展示センターが中心となっている。支部の事業内容は

- ・介入プログラムの実施
- ・研究
- ・情報収集
- ・啓発キャンペーン
- ・予防情報の提供

キッドセーフの当初の目的は住民の意識高揚、事故防止を公衆衛生の課題とする、情報収集の開始、プログラムやセンターをスタートさせる等であったが、当初の目的はある程度達成され、支部が財政的に独立するようになった。連邦事故情報システムが発展し、保健省に事故対策部門ができるなどの変化にともない、キッドセーフの機能も、子どもの権利養護や連携の調整に変わっていった。

資金は連邦政府、州政府からの助成金、企業からの寄付金、出版物収入、会費等である。ボランティア活動によっても支えられている。

成功のかぎは、社会的影響力の大きい人たちが会員となっていること、報酬を期待しないで働いてくれる人たちがいること、無償のさまざまな技術的支援を受けられたこと等である。効果的な事故予防方法を模索することにより、乏しい社会的資源をうまく使うことができ、努力が評価されるようになった。

2. キッドセーフWA視察結果

プリンセスマーガレット小児病院協には、キッ

ドセーフ西オーストラリア支部として機能している、リソースセンター（いろいろな取り組みのためのオフィスと物品を備えている）と、デモンストレーションハウスが建てられている。また、これらに隣接した病院棟の一部にオフィスとして用いられている部屋もある。デモンストレーションハウスはわが国の小児事故防止関係者の間ではよく知られており、これまで山中龍宏先生、池袋保健所、石川県等が訪問し、ノウハウが移入されている。ハウスはキッチン、窓辺、リビング、バス、衣類の工夫等の、区画に分かれており、さまざまな小児事故防止に関する展示がされている。それらは、あるいは報告書等に載せられ、一部は池袋保健所や石川県でコピーされ、わが国でも知る人は多い。書物等で概略は知っていたものの、実際足を踏み入れて初めてもった印象があった。それは、小児事故防止の人間の行動意識のなかでの位置付けである。子どもの命や健康は、大切なものであるから、それを脅かす不注意はいけませんが、もしあった場合それが責め立てられるがゆえの予防という、指摘型の啓発ではなくて、安全で快適な生活の創造という、ポジティブな動機にあふれた行動を促すための啓発という印象が強かった。保健啓発がおどしだけでなく、安全と健康に積極的に心が向かう手助けをするのは重要なことだと考える。

リソースセンターも一部かかわっている取り組みは次に取り上げる通りであるが、そこからすぐに入れる病院の建物の一部には、後述するBabysafeのプログラムのためのオフィスがあった。

キッドセーフWA（WA＝西オーストラリア）の取り組み

以下の取り組みはすべてさまざまな組織との連携のもとに、あるいは援助を受けて行なわれている。

チャイルドシート

1986年、プリンセスマーガレット小児病院裏に小さいリソースセンターがオープンし、非常勤のスタッフが交通事故に関する取り組みを始めた。低所得家庭に対し、チャイルドシートを配ることから始めたがすぐ追いつかなくなった。1992年、2歳までの交通事故死に関する調査が行なわれ、1994年、チャイルドシートを義務付ける規制がで

きた。1994年にはタクシーにチャイルドシートを付けるプロジェクトが走った。1995年、専門家向きのチャイルドシートのインフォメーションキットが作られた。1996チャイルドシートの取り付けステーションが設けられた。

公園

1987年、公園のある種の遊具が調査により危険と分かり、「遊具マニュアル」が作られた。危険箇所について修正が行なわれているが、非都市区域ではまだ危険が多い。

事故調査

プログラムの効果を分析するにも、要注意地域を明らかにするにも、参考にできる統計データがないため、1986年、プリンセスマーガレット小児病院救急部でサーベイランスが始まり、雑誌「KidsafeWA」（本稿の一部も本誌最新版の記事を参考に書かれている）で年2回、結果が紹介されている。資金がないためサーベイランスは1992年に打ち切れ、情報を必要とする各方面で不便を来している。

家庭内事故

サーベイランスによると、小児事故の60%が家庭内で起こっている。写真展示のほか、5歳以下の子どもがいる家の台所を中心として3次元展示が行なわれてきた。1991年、プリンセスマーガレット小児病院がスポンサーを得て、デモンストレーションハウス、リソースセンター、その他のオフィスを設立し、毎年6000人の見学者が訪れている。

でき水

1988年、小児のでき水が非常に多いので、CAPFAが保健省と組んでこの問題に取り組んだ。テレビで溺れかかった子どもの話題を取り上げるなど、プールまわりでの小さい子どもの危険を訴えた。運動の甲斐あって、1992年7月、新しいプールを作るときはフェンスを付けることが義務付けられた。1993年11月には、フェンスの替わりにある種の窓やドアでも良いことになったことは、安全という意味では後退になったが、適切に付けられれば場合快適な外観となってよい。

自転車

毎年 500人の子どもが自転車運転中の事故で救急外来に運ばれるので、車道で自転車にのる前に講習を受ける必要性が強調された。サーベイランスでは、自転車運転中の事故は頭部が圧倒的に多い。ビクトリア州では1990年7月に自転車運転中のヘルメットの着用が義務付けられている。西オーストラリア州では、4000人の教師の署名の力を借りて、1992年1月、ヘルメット着用が義務付けられた。1992年、自転車事故は減少したが、資金不足でその後の追跡はなされていない。

ショッピングカート

1990年、事故調査データは、ショッピングカートから落ちるなどして怪我をする小さい子どもが多いことを明らかにしていた。ショッピングカート用のチャイルドシートを制作する業者が出てきて、購入できるようになっている。

トランポリン

トランポリンによる怪我は救急外来のかなりをしめるので関心と呼んでいるが、支柱やスプリングにカバーをかけようとする業者がないのが現状である。

NIPPER

北パースの6郵便区の24,000人の子どもをターゲットとし、南パースの6郵便区をコントロールとして行なわれたプロジェクトである。事故による怪我の情報は収集され、プリンセスマーガレット病院にモニターされる。小学生の事故が防止活動の最良のターゲットであることがわかり、北パースで1988年から3年間で23%の事故が減った。南パースでも1991年から同様の取り組みが行なわれた。NIPPERの報告システムには地区の44%の学校をカバーしているが、波及効果も生まれているという。1991年ナロギン地区においてもこの活動がヘルスウェイのスポンサーによってコピーされ、90%の学校がカバーされた。1996ねん、ファンドが切れたが、保健省と文部省の協力のもとに州レベルでのプロジェクトが1997年度3学期から始まる。

ヘルスウェイによる補助

ヘルスウェイのスポンサーによるイベントに参

加する小学生へのメッセージとしてSafety rules OK!スローガンが開始された。これは、展示、ステッカー、しおり、はがき等に多くの年齢の子どもたちの安全課題を示すものである。

中毒防止

ヘルスウェイの補助によるプロジェクトが1996年7月10日に始まるのキッドセーフウィークに立ち上がった。プリンセスマーガレット小児病院で保健省による集会が行なわれ関係の承認を得た。保健関係者にはプロモーションの媒体が渡され、薬局には買いにくる人の教育のための媒体が提供された。ラジオでもこれについて流され、1997年12月このプロジェクトの最終報告書がだされ、キッドセーフWA12月号に紹介される。

今後のプロジェクト

1998年は0~4歳児のでき水について再度取り上げる。また、財政が許せば、火傷についても行なう。

Babysafe—妊娠中からの安全教育

Babysafeは、1997年6月9日、スワン地域病院で立ち上がった。小児の死亡事故の半数以上が5歳以下で、その半数が家庭内で起こり、しかも予防可能なものである。スワン地区での小児の事故の入院は他より人口あたり9%多い。現在妊娠中から小児事故防止に取り組んでいるプログラムはほとんどない。ベビーセーフのプロジェクトは妊娠中から親を教育することにより4歳未満の小児の事故を防止しようとするものである。スワン地区の病院の両親学級において行なわれる。妊娠中は子供部屋の家具とチャイルドシートが強調され、産後には、子どもの発達と事故のリスクとの関係が扱われる。配られる媒体は、安全知識のほか、セカンドハンドの入手の仕方や、情報収集ための電話番号など、幅広い。病院での親教育に携わるものには事故防止の最新情報が与えられる。キッドセーフは必要な資源やトレーニングを提供する。

3. 西オーストラリア州の事故防止プログラムにおける聴取

西オーストラリア州の事故防止プログラムの目標は以下のように設定されている。

1. 事故予防の連携を推進する
2. 正確でタイムリーな事故情報を提供する
3. 65歳以上の老人の事故を減らす（転倒、転落、医薬品）
4. 家庭内事故を重傷度の面から低減する（子どもの火傷、転倒、でき水、中毒。犬に噛まれる、家庭大工）
5. 交通事故を減らす
6. 暴力による障害の軽減（適正飲酒）

事故防止リソースパッケージについて

さらに、西オーストラリア州保健局事故防止プログラムは先進的なトレーニングプログラムを提供している。それは、地域の事故防止に必要な知識と技能を強化する機会を与えるものである。それは最近プログラムでまとめられ公にされた“*Injury Prevention Resource Package*”に基づいている。このパッケージの運用のほか、初心者向けの補助金に応募する機会を与えることが課題となっている。このパッケージの目的はトレーニングとモデルプロジェクトにより事故防止の方策を強化することにある。マニュアルは、防止の方法のほか統計やリスクファクター等からなる。また、特定の事故に関する関連機関やサービス資源について紹介してある。

トレーニングワークショップの意義

なぜ事故防止なのか：事故防止へのさらなる取り組みは地域で住民によって行なわれる必要があり、地域ベースの介入が重要な役割をはたす。

なぜ事故防止ワークショップなのか：

1. 地域レベルで事故防止の意識を高める。事故の恐さと、ほとんどの事故が防止可能であることを理解させると、人々は動いてくれる。
2. 事故防止はそれ自体主義と接近をもった独立した分野である。事故防止は近年公衆衛生の課題として受けとめられている。それには、最適の専門家と地域ベースの従事者が必要である。
3. 参加者に知識と資源を与える。ワークショップ参加者にモデルを周知する。
4. 参加者に事故防止リソースパッケージを紹介する。これは事故防止のための包括的ガイドである。事故防止を助けとして多くの機関やサービス資源がそれらの連絡方法や費用とともに紹介される。

5. 事故防止の関心の輪は広がっている。地方の病院が情報を集め、プロジェクトを試みている。州の多くの事故防止担当者が、いろいろなプロジェクトの手助けをしている。

ワークショップの目的：参加者をリソースパッケージに馴染ませる。事故防止の基本方針を紹介する。パッケージの使用の実際の機会を与える。参加者と事故防止に取り組むさまざまな方法を考える。

モデルプロジェクトとは

モデルプロジェクトは西オーストラリア州の事故防止協会と西オーストラリア州保健所事故防止プログラムにより企画され、ヘルスウェイの財源による。5つのモデルプロジェクトが地域で使えるようになっている。これは、先行事業から、地域での啓発と予防に有効であったことがわかっている方策に基礎をおいている。

これらはワークショップで研修を受けたものによって行なわれ、それぞれ決められた金額の補助が受けられる。プログラム運営の方法や評価については情報キットが提供されている。

火傷予防：これはキッドセーフのプロジェクトとマイアミでのプロジェクトを参考にしている。火傷についての知識の普及意識の向上の他に家庭への煙探知機の配布も目的としている。現行の地域の集会の場を生かして、4回にわたるセミナーを開催する。ガイドラインは協会とプログラムが提示するキットにある。

通学路の安全：通学安全ボランティアのトレーニング促進が目的である。コーディネーターは安全な通学路の確認や車の乗り降り場所のモニター等を含む、ボランティアの仕事の内容について指導を行なう。

自転車ヘルメット：シアトルのキャンペーンが成功しているが、それを参考にしている。小中学生に通学中の自転車ヘルメットを着用させることを目的とする。多くの行政部署、警察、学校東都の連携のもとに行なう。

家庭内の安全：ホームパーティー形式で家庭内事故防止に普及啓発を行なう（詳細は後述）。

老人の転倒：転倒による骨折のリスクを下げるために骨密度をあげ、筋力を向上し歩行バランスを良好にしようとするものである。

家庭内事故防止プロジェクト

題目：ホームセーフホーム パーティー

目的：地域で、家庭内の安全の知識と意識を向上する。家庭に安全グッズを増やす。家庭内安全チェックをすすめる。

方法：トレーニングを受けた人によってコーディネートされる。ホームパーティーのやり方等についてもトレーニングする。取り組みは行政協会等の部署や地域の人々の助けを受けて行なわれる。このプロジェクトのことをローカルラジオ局、地方紙を通じて周知し意識を高める。要求があればホームパーティを開く。家庭内安全のためのキットをみせ、注文の機会を与える。ゲームを行い賞金を出す。もし希望があれば、パーティ中に家庭内の安全チェックを行なう。パーティのホストにはギフトをあたえ、またその友人や親戚がパーティを開いたらギフトを追加する。キッドセーフの注文様式を用いる。キッドセーフは支払いや品物の配達を円滑にする。プロジェクト終了後評価を行い、事故防止プログラムに報告する。

対象年齢：0～6歳の子ども

資源：パーティー開催者へのブリーフィングを含むパッケージは事故防止プログラムより与えられる。ホステスへのギフトやゲームの商品はキッドセーフWAから買える。安全グッズの見本はキッドセーフにある。

人材：担当者は地域の人の支援を受けてプロジェクトを調整する。コーディネーターは自らパーティーを開くか、ボランティアの訓練をする。

期間：プログラム発効後6ヵ月

評価：行なわれたパーティーの数、参加者の数、安全グッズの注文状況、パーティー前後の質問表の回答。

費用：パーティー5回につき 600ドル（ギフト、景品、交通通信費等）。

考察

オーストラリア、特に西オーストラリア州における小児事故防止の現状をみてきたが、わが国の保健活動と対比してみても多くの特徴がみられる。小児事故防止は予防活動であるが、それは子どもに怪我をさせる親や地域を非難することから始まるのではなく、安全で快適な生活の創造という発想の向きが根本にあるように思う。取り組みにあ

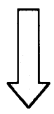
たっては、基礎的な統計情報が重要かつ必要であることが十二分に認識されており、また、データソースの提供や取り纏めにあたっては、病院、行政組織、民間組織が密に連携をとり、無駄のない運用が心がけられている。

西オーストラリア州の事故防止部プログラムのオフィスは市街から車で10分ほど行ったところにある瀟洒な庁舎にあるが、その室には保健省、文部省、その他の省庁に所属するスタッフが机を並べ、和気藹々と業務に取り組んでいる。そこには組織の縦割りの壁がない。保健省の担当が“We all do close together.”と言ったのが印象的である。それは行政内部だけではなく、キッドセーフのような民間の団体をはじめ、製品の安全をめざしていくための民間の産業との連携のことも含まれている。

プログラムの内容は分かりやすく、实际的である。地域の生活に根ざした、身近な取り組みとなるように工夫されている。公衆衛生は決して高邁な理想ををめざして難解になってはいけないことを教えられる。著者はさまざまな保健活動に首をつっこんではつまづいているが、これらの取り組みに触れると、まずはやってみることからという意識がかきたてられ、勇気づけられる。

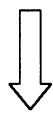
文献

- 1) 山中龍宏. 小児の事故防止へのアプローチーオーストラリアのセーフティセンターの活動についてー厚生省心身障害研究「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」平成3年度報告書. 208-209, 1992.
- 2) 山中龍宏. オーストラリアの事故サーベイランスシステムについて. 厚生省心身障害研究「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」平成3年度報告書. 210-212, 1992.
- 3) 林正男, 他. 子どもの事故防止策先進地視察報告書. 石川県, 1997.
- 4) Injury control program. Strategic planning document 1997-2001. Health department of WA, 1997.
- 5) Devene C, Lyford M. Community-based injury prevention of WA. Emerging issues in health: prioritisation and actions, Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health, 71-72, 1997.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:オーストラリアにおける小児事故防止対策について国内報告書をレビューした結果、早くからセーフティセンター、事故情報システム等の特徴ある取り組みが関係機関との連携の元に行われていることが分かった。また、キッドセーフのような民間の団体が重要な役割を演じていることが分かった。キッドセーフ西オーストラリア州支部では、快適で安全な生活を目指してモデルハウスによる展示がされ、日常生活の各方面にわたる長年の小児事故防止の取り組みが行われており、現在妊娠中からの安全教育に着手している。西オーストラリア州事故防止プロジェクトでは、情報キットとトレーニングワークショップからなるパッケージが提供されたところであり、地域住民の力を生かしての生活に密着した事故防止の取り組みが始められた。